

18歳選挙権実施にあたり 本町の取り組みは



議員 千重子 榎谷

【問】榎谷議員
少子高齢化が進む中、若者が政策過程に参画し、政治的影響力を高めることは、新たな時代を築くための歴史的必然と考える。

模擬投票、模擬議会、キャリア政治家を呼び、話す機会を設けるなど、実際の選挙に必要となる知識を得たり、実践的な教育活動を通して、理解を深めるよう指導するなど、教育委員会と連携し進めてはどうか。
来年の参議院選挙に向け、18歳有権者を含む選挙違反を防ぎ「違法・不当行為」対策に万全を期し、生徒から選挙違反を出さない取り

組みと、生徒が有権者として、自らの判断で権利行使できるよう指導していただきたい。

【答】峯野教育長

模擬投票や模擬議会など体験的な活動を通して、政治や選挙が身近なものであるという意識を育てていく学習が大切になってくる。教育委員会としても、子ども達が将来の有権者としての自覚を高める主権者教育の充実を図っていきたい。

【答】仁田総務課長

県の選挙管理委員会並びに明るい選挙推進協議会と連携し、啓発活動をする必要がある。



大谷避難広場

避難所のさらなる工夫と 町役場の今後について

【問】榎谷議員

避難広場は、一時的に避難する所で、長期にわたり滞在する所ではないが、津波警報が解除されるまで、長時間になる可能性が予測されるが、避難広場には何も置けないか。
つぎに「命を守る意思欠

問題、危険避難箇所のマップの見直し、再三にわたり提案している町役場の移転はどうするのか、万全を期すためにも一刻も早い決断を。

【答】福井町長

町役場の耐震改修を行い再利用することは、費用対効果を考えると、得策でないかと判断している。移転後の海部病院を活用し、役場と健康センターなど、牟岐町創生に期する施設を設置、誘致すべきと考える。来年中には計画を策定する必要がある。

【問】榎谷議員

避難広場は、一時的に避難する所で、長期にわたり滞在する所ではないが、津波警報が解除されるまで、長時間になる可能性が予測されるが、避難広場には何も置けないか。
つぎに「命を守る意思欠

【答】仁田総務課長

中村津波避難タワーですが、現在の避難タワーを継ぎ足すということは、耐震性の関係からできない。